

# 福中通信2022

3月号



令和4年 3月1日  
発行責任者 市瀬 佐代

## ○3月はふり返りと準備の時

3月は、1年をふり返って自分の成長を確認し、来年度の抱負を考える大切な月です。まずは環境から整えましょう。清掃の時間、校長室の当番の人と2人で廊下を磨いていました。通りかかった1年生、2年生、3年生と一緒に磨いてくれました。2人が5人になって温かな気持ちになりました。廊下はピカピカになりました。3月は校長室の掃除をしながら、気になる箇所の清掃をしていこうと思っています。年度末クリーン作戦、皆さんも、自分の身の回り、普段自分が使っている所を見直してみてください。4月から次の人が使う教室やロッカー、廊下やトイレ、気持ち良く使えるよう美しくしてバトンタッチしていきましょう。

## ○県駅伝大会

皆さんの毎朝の練習、自分の限界に挑戦する姿は清々しくいつも元気もらっています。大会では、日頃の練習の成果を発揮し、襷をつないで堂々と走りきることができました。女子は腕にメッセージを書いて、お互いを励まし合っていました。

壮行会

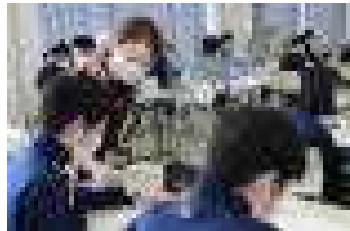


腕のメッセージ

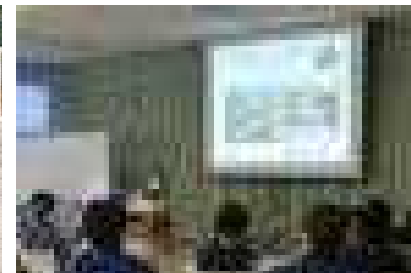


## ○キャリア教育講演会

現代書家アーティスト原田葉月さんが、キャリア教育講演会の講師に来て下さいました。美文字教室・講話・パフォーマンスと多彩な内容でした。美文字教室では、ホワイトボードに全員が「福井」と書きました。講話では、これまで歩んできた道を率直にお話いただき、パフォーマンスでは、3年生と担任の先生のリクエストの言葉「心に太陽を」「人との出会いを大切に」を書いてくれました。パフォーマンスに入る前、30秒の瞑想を全員で行いました。書に臨む葉月さんの集中力は素晴らしかったです。



## ○避難訓練 防災講座



2時間目の休み時間、「理科室から火災発生」の状況で、予告なしの避難訓練をしました。

今回は、けが人を想定し、担架で運ぶ訓練もしました。

京都市消防署が、京都アニメーション火災につ

いてまとめた「火災から命を守る避難の指針」には、「自分たちの命を自分たちで守る」ために「何らかの異状を感じたら即行動を起こす。とにかく早く避難行動を開始する。避難判断は5秒で。」とあります。火災はいつ、どこで起こるかわかりません。おかしいな、と思ったら、自分の命を守るため、安全に避難行動を開始しましょう。5校時には、南部県民局の危機管理部の方を講師にお迎えし「まなぼう災教室」が開かれました。

## ○四電エネルギー出前授業

体育館で、四電の方のご指導で様々な科学体験をしました。これは一瞬で凍ったバナナを金

## ○ありがとうございました。3年生への合格お守り

地域の方から手作りの合格お守りを、3年生へ一人一つずついただきました。一つとして同じものはない、手作りの愛情がこもったお守りに、生徒たちも大変喜んでいます。ありがとうございました。



## ○人権ふれあい子ども会閉講式

教育集会所、教育委員会、保護者会の皆さんとともに、閉講式が行われました。2年生が中心となった子ども会活動でした。毎週の学習の他に、冬季合宿の研修がとても印象に残っています。

## ○出前授業（英語）

小学校6年生への出前授業は、英語で各国の国旗や動物の鳴き声をあてるゲーム、英語での自己紹介、と盛りだくさんの内容でした。6年生は、一生懸命取り組んでいました。

## ○「楽しい子育て全国キャンペーン三行詩コンクール」優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。



## 驚いたね雪の朝



\*裏面は「3月の行事予定」と全国人権作文入賞作品です。今回は、「名前」についてです。是非お読みください。

### 3月の行事予定

3日(木)PTA会計監査・新旧役員会 ALT来校  
スクールカウンセラー来校  
6日(日)家庭人権学習の日  
7日(月)1,2年学年末テスト(9日まで)  
8日(火)公立高等学校一般選抜(学力)  
9日(水)公立高等学校一般選抜(面接)  
10日(木)修了証授与式・卒業式予行  
スクールカウンセラー来校  
11日(金)卒業式  
図書館サポーター

16日(水)一般選抜合格発表 ALT来校  
18日(金)学校安全の日 ひまわり号  
21日(月)春分の日  
22日(火)PTA総会・修学旅行説明会  
24日(木)修了式・離任式  
スクールカウンセラー来校  
25日(金)学年末休業日(31日まで)

### 4月の行事予定

1日(金)学年始休業日(7日まで)  
8日(金)始業式  
11日(月)入学式  
12日(火)第1回PTA役員会

「名前」

文部科学大臣 賞  
福島県 須賀川市立第二中学校 3年  
須田 琴菜(すだ ことな)

結婚したらなんていう名前になりたい?

中学生の女子のおしゃべりはいつも夢に満ちた恋や結婚への憧れが散りばめられている。

「神宮寺、なんてかっこいいよね。」

「私は好きな人の名前なら何でも！」

あまり近寄りたくない話題なのに、

「琴菜は?将来どんな名前になりたい?」

聞かれてしまった。うーん。言い淀む私に一人が気を使ったように、琴菜はお家を継ぐんだよね。お婿さんをもらうから名前はそのままなんだよね、と言う。あ、そうなんだ。いいね、大人になってもSNSで探しやすいね、と誰かが言い、みんなが笑った。私もほっとしながら一緒に笑う。

私の家は四百年以上続く神社の神主の家系で、その職を継ぐのは私の小さいころからの夢だ。家族も地域の人たちもそれを喜んでくれているようで、それは私にとっても嬉しいことだ。しかし、時々ひっかかる言葉に出会うことがある。例えばさっきの「お婿さんもらう」もそう。確かに私の家はずっと「神職の須田家」で私には姉妹しかいないけれど、私が神社を守っていくのに「お婿さん」は必要なのだろうか?

新聞やニュースで、「選択的夫婦別姓」という言葉を聞くことが多くなった。夫婦は同姓と定めている今の法律下では、姓を変える側だけが多大な不利益を被ってしまうので議論が進んでいるらしい。日本には慣習的に女性が自分の姓を男性側に変えることが圧倒的に多く、その割合は九十六パーセント。だからこれは女性の人権問題だとする声大きい。

だけど私には、残りの四パーセントの数字が心にのしかかる。私は将来の夢

を目指す限り、一緒になってくれる人に、たった四パーセントの男性しか被らない不利益をお願いしなければならないのだろうか。考え出すと将来を思い描くことが少し嫌になってしまう。同じ悩みを抱えている人はいないのかと調べてみるといろんな意見、解決すべき様々な課題があった。旧姓の通称使用の限界。子の姓決定問題。婚姻に際し選ぶ姓は夫側でも妻側でも構わないのだからその点において公平だという主張もわかった。それでもなお私が将来の伴侶にどこか遠慮をしてしまうのには、もう一つの理由がある。

神社は母の実家で、父が姓を変えた。レアな四パーセントの方だ。父に、名前の変更は大変ではなかったか、と訊ねたことがある。

「ありとあらゆる名義変更。友人や知り合いへの通知。親の説得、自己喪失感。確かに大変だったけど、それよりキツイのはね、」

父は少し間をおいて、お婿さんっていうレッテルを貼られることだよ。と言った。お父さんとお母さんは、ごく当たり前に、二人で独立した戸籍を作ったんだよ。その時に妻の姓を選んだ。ただそれだけなんだけど。

「でもお父さんはお婿さんなんですよ?」

という私に父は急に真面目な顔で言った。

「琴菜、覚えておきなさい。結婚するすべての男性は花婿で、すべての女性は花嫁だ。その意味以外の婿、嫁という制度は今の日本には存在しない。婿に来た、とか嫁にもらった、という言い方をきくかもしれないけど、それは誰かを知らず知らずに貶め、不快にさせているかもしれないから、琴菜はよく気を付けようね。」

はっとした。「お嫁さん」は私たちの日常でもよく聞く言葉だ。近所のおじさんは、ウチの嫁さんが、といつも言っている。父の言うことを考えると、それすらも先入観と色眼鏡を通した言葉になってしまう。

以来、ずっと婿や嫁という言葉について私は考え続けている。古い日本の家父長制度の慣習だった嫁入り、婿入りの概念が令和の今も残っている。私の住むような田舎の地方では今もなお、苗字を変えた男性は「お婿さんなんです」と揶揄され、女性は「嫁」としての役割を背負わされがちだ。「お婿さんだからかわいそう」「お嫁さんだから名前を変えて当然」悪気はなくても、勝手に貼ったレッテルで誰かの社会的立場を決めつけることでやはりその人の人権を蔑ろにしているのではないだろうかとは私は感じている。

間違っただけの思い込みを誰かにぶつけること、それが「差別」だと思う。そして差別意識は人権の無視に他ならない。選択的夫婦別姓についての議論もこれからますます必要になるだろう。それと同時に、夫婦がどちらの姓を選んでもそれが当たり前になるよう、社会の成熟を促すことも急務だ。

勿論私だって、中学生女子的「好きな人の苗字になりたい」も素敵な気持ちだと思う。でも苗字がどちらでも、将来のパートナーと私はどんな時も対等でいたい。

だからまずは私から、偏見を含んだ言葉を人に向けないこと。間違っただけの思い込みをしていないか常に見直すこと。私の夢を応援してくれる周りの友達にも、私の考えていることを伝えていこう、と思っている。

「第40回全国中学生人権作文コンテスト中央大会入賞作品」